

<痛ましい海浜事故事例>

事例 1

令和 2 年 7 月、福岡県新宮町の海岸で子どもだけで遊んでいた小学 4 年生の女兒 3 人のうち、1 名が波にさらわれ溺死しました。例年であれば海水浴場として開設されて監視員等が常駐しているところ、新型コロナウイルスの影響で海開きされておらず、監視員等はいませんでした。

事例 2

令和 2 年 6 月、茨城県ひたちなか市の海水浴場に高校生の友人 5 人で訪れ、そのうち 1 名が水域内設置の沖合構造物までビーチボールを抱えて泳ぎ始めたところ、ビーチボールが外れ溺死しました。この海水浴場は海開き前であったことから、監視員等はいませんでした。

<背浮きをしながら救助を待ち助かった事例>

平成 29 年 3 月、沖縄県石垣市の海水浴場において、友人 3 人とビーチで磯遊びをしていた小学 6 年生の男の子 1 名が、深みにはまり流されたものの、テレビ番組で見た「流された場合の姿勢（仰向けで力を抜いて大の字になる。）」を思い出してその姿で漂流。その間、友人が近くにいた大人に救助を求め、ビーチ救難所の水上オートバイにより救助された。

水辺での安全指導、監視・救助を行う団体である（公財）日本ライフセービング協会と海上保安庁は、平成 30 年に協定を結び、事故防止のため情報を共有し安全啓発活動を実施しています。

海水浴における事故防止指導教材として、日本ライフセービング協会作成の資料（e-Lifesaving）を紹介させていただきますので、ご活用ください。

<公益財団法人日本ライフセービング協会>



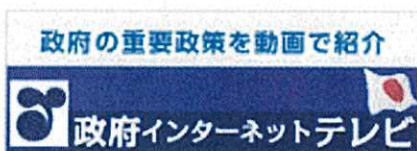
守ろう！いのち
学び合おう！水辺の安全



<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>

<政府インターネットテレビ>

「海上保安庁監修」～海のプロにきく“遊泳時 4 つの心得”～



<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg20942.html>